中学校第3学年音楽科学習指導案

Ⅰ　題材名　　日本の伝統芸能の魅力を味わおう
　　教材名　　文楽「義経千本桜」

Ⅱ　大会主題との関わり

【本時でイメージするより高まった生徒の姿】

義太夫節の特徴を感じ取り、その効果や役割を考えながら根拠をもって批評する活動を通して、日本の伝統芸能である「文楽」のよさや美しさを味わおうとする生徒の姿

Ⅲ　本時の視点

視聴覚教材の提示の仕方を工夫したり、音楽を形づくっている要素を手がかりに知覚したことと感受したことの関わりについて考え小グループで交流したりすることは、義太夫節のよさや特徴、総合芸術としての文楽のよさや魅力を味わう上で有効であったか。

Ⅳ　考察

1　題材観

本題材における新学習指導要領の位置付けと、本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素は、以下のとおりである。

B 鑑賞	ア	（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠
		（ウ）音楽表現の共通性や固有性
	イ	（ア）曲想と音楽の構造との関わり
		（イ）音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素 音色、旋律、リズム、テクスチュア		

本題材では、日本の伝統芸能の歌舞伎や、総合芸術であるオペラやバレエの鑑賞の学習の経験を基に文楽の学習に取り組むものである。文楽は、戯曲としての文学面、人形劇という演劇面、義太夫節という音楽面が関わり合う総合芸術であり、日本が誇る伝統芸能の一つである。しかしながら江戸時代に上方で発展していったため、歌舞伎と比べると関東圏内での認知度や上演機会には乏しい現状がある。そのため文楽に親しんでそのよさや魅力を体感する学習を積んでいくことが必要であると考える。文楽は、太夫の語りと太棹三味線によって演奏される義太夫節の音楽に、人形遣いが互いの呼吸を合わせて人間の様々なドラマを表現していく総合芸術である。太夫は登場人物の台詞や心の動き、場面の様子等を一人で語り分け、三味線弾きは太夫の語りに合わせて人物の心の動きや季節、時間などを様々な音色で表現したり、時に太夫をリードしたり支えたりする。その両者の呼吸の合わせ方や間の取り方等の一体感が義太夫節のよさや魅力である。音や音楽の働きを捉えながら文楽に興味や関心を深めて義太夫節の豊かな表現について感じ取らせたり、演技と音楽とを別々に鑑賞する場面を設けて総合芸術を司る

芸術について気付かせたり、合わせたものを視聴してそれぞれの芸術が絡み合うよさや美しさを見いださせたりしながら、総合芸術の醍醐味を味わわせる授業を展開する。そして生徒自身にとってこの伝統芸能が価値あるものとしての意味を見いだせるようにする。

文楽「義経千本桜」は、源平の戦いで勝利をした後に兄頼朝と不和となった義経と、平家の武将平知盛、維盛、教経、源九郎、狐、静御前、いがみの権太らによって繰り広げられる全五段からなる時代物である。日本を代表する長編戯曲の一つで、現在でも文楽、歌舞伎の双方で主要な演目となっている。「大物浦の段」は平知盛を主人公とする物語で、二段目の切。尼崎の大物浦にある船宿に身を隠している義経一行は、西国方面に行く船を待っている。そこへ鎌倉方の武士と名乗る男たちが一行を捜索するためにやってくるが、船宿の主渡海屋銀平が窮地を救い、今夜のうちに出船するよう義経に勧める。しかしこの銀平こそ壇ノ浦の合戦で死んだと思われていた平家の勇将平知盛であった。義経を討ち取る時節を狙っていた知盛は、今夜の暴風雨の中で自らを幽霊と見せかけ一行を襲撃すると勇んで出陣する。しかし、義経はその企てを先刻承知しており、知盛は義経に安徳天皇をゆだねて、我が身に縛り付けた大イカリもろとも海中へと沈んでいくのである。終盤のたたみかけるような太夫の語りと、大イカリのつながった太い綱を体にくくりつけて岩の上から真っ逆さまに落ちていく知盛の最期が、平家最終の壮絶な悲劇を象徴するようで見ごたえがある。義太夫節と人形遣いの技が見事に重なり合い、総合芸術としての文楽を学習するのに適切な教材である。

また、本題材の系統は、以下のとおりである。

学年	題材名・内容	主な音楽を形づくっている要素
第１学年	**日本の伝統音楽に親しもう** 箏や尺八の音楽を形づくっている要素と曲想と音楽の構造との関わりについて感じ取り、その価値を自分なりに考え、よさや美しさを味わう。	音色、リズム、速度、旋律、形式、構成
第２学年	**総合芸術の魅力を味わおう** オペラや歌舞伎の音楽表現の多様性を感じ取り、それぞれの共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わう。	音色、リズム、旋律、テクスチュア、構成
第３学年	**日本の伝統芸能の魅力を味わおう** 文楽や能の音楽の特徴を感じ取り、それぞれの背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解し、よさや美しさを味わう。	音色、リズム、旋律、テクスチュア

２　生徒の実態（男子１８名・女子１８名　計３６名）

本学級の男子生徒は表現力豊かな生徒が多く、女子生徒はどんな課題に対しても誠実に臨むことができる。全般的に音楽に対して興味や関心が高い生徒が多く、明るい雰囲気で熱心に授業に取り組むことのできるクラスである。

〈知識及び技能〉

３年生は１学期に鑑賞「バレエの魅力を味わおう」で、『バレエ音楽「白鳥の湖」』（P.I.チャイコフスキー作曲）を学習してきた。そこでは、伴奏音楽から「白鳥の湖」のテーマをつかみ、物語の進行とともにテーマの音楽表現が変化していくことを比較鑑賞や小グループでの話し合い等を通して捉えてきた。はじめのテーマの旋律を短調と気付けた生徒は半数ほどだったが、気付いたことの共有や部分鑑賞を重ねていくことで、物語の結末ではテーマが長調に転調したことをほとんどの生徒が感得することができた。２年時の歌舞伎の学習では、はじめは言葉や歌詞の内容

を聞き取れず音や音楽を漠然と捉えていたが、あらすじを知ったり場面鑑賞を重ねたりしていくうちに歌舞伎の音や音楽の効果や役割について感じ取れるようになった。そこで、本題材では部分鑑賞を重ねることで、音楽の効果や役割についての理解を深めるとともに、その背景となる文化や歴史、他の芸術と関連付けて理解する力を身に付けさせたい。

〈思考力、判断力、表現力等〉

「白鳥の湖」では物語の進行とともに伴奏音楽に登場するテーマの音楽表現が変化していくが、要素同士がどのように関わり合っていくのかという音楽の構造についても感じ取って聴けるようになってきている。そして、音楽のみならず他の芸術と関わり合う総合芸術の魅力についても味わってきた。歌舞伎では、伴奏音楽のみを知覚した段階ではその効果や役割を捉えられなかったが、物語の進行や登場人物の心情と関わらせて聴き進めていくうちに、感じ取れるようになってきた。それにより音楽的視野が広がって物語全体を味わい、歌舞伎のよさについて考えその価値を表すこともできてきた。そこで、本題材では視聴覚教材の映像や音声の提示の仕方を工夫し、義太夫節と人形が関わり合う文楽の魅力とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴くことができるようにしていきたい。

〈学びに向かう力、人間性等〉

「鑑賞の授業が好きである」と答えた生徒は２７名で、その理由として新しい曲に出会えるとわくわくする、どんな楽器で演奏されているのかを想像するのが面白い、とする回答が多く楽器の音色や雰囲気に興味をもって味わう生徒がほとんどである。中には、友達の考えを聞くことで自分が学べる、人それぞれの感じ方が違って面白い、聴き進めることにより自分の視点が変わり、曲を理解できると回答した生徒もいた。「どちらかというと好き」と答えた生徒は５名で、歌うことも好きだからという理由であった。「あまり好きではない」とした生徒は４名で、楽器の音色等を聴き分けることが苦手、鑑賞後に言葉に表すのが上手にできない、ということを理由に挙げていた。「嫌い」とした生徒はいなかった。音楽を聴くこと自体は楽しんで臨めるが、要素同士の関わり合いや音楽の構造等の聴く視点を明確に押さえたり、言語活動に表す際の支援の必要性が伺える。

オペラと歌舞伎の学習を経たが、西洋音楽への関心が高く、進んで日本の伝統音楽に対面しようとする姿勢は乏しい。また、「人形浄瑠璃」という言葉は社会科の授業で学習しているが、その芸能を観たり聴いたりした生徒はいない。本題材で文楽を学習することを通して、日本の伝統芸能の魅力を味わわせ、音楽文化と豊かに関わることができるようにしていきたい。

Ⅴ　目標

○文楽の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解することができる。　【知識及び技能】

○鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、文楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○文楽の曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に鑑賞の授業に取り組むことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

Ⅵ　評価規準

ア　音楽への関心・意欲・態度	エ　鑑賞の能力
①文楽の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察、ワークシート】	①文楽の音楽の特徴を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりについて理解している。 【観察、ワークシート】 ②文楽の特徴を、その背景となる文化や歴史、他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠をもって批評するなどして、よさや美しさを味わって聴いている。 【観察、ワークシート、批評文】

Ⅶ　指導計画（全２時間　本時は１時間目）

過程	教材	時	主な学習活動	留意点・支援等
つかむ／追求する／まとめる	義経千本桜	1本時	○太夫と三味線の音楽の特徴を感じ取り、文楽における義太夫節のよさや魅力を聴き取る。	○義太夫節の音楽の特徴をつかみやすくするために、音声のみで聴かせる場面を設定する。 ○太夫のうたい方や語りの特徴をつかませるため、実際に声に出して感じ取らせる。 ○太夫と三味線の重なりや関わり方について様々な角度から気付かせるために、小グループ活動を取り入れる。
			評価規準（評価方法）	ア①　エ①　【観察・ワークシート】
		2	○文楽の人形遣いや舞台の仕組みや、「大物浦の段」のあらすじを知った上で、「義経千本桜」のよさや美しさを味わって聴く。	○文楽の人形の三人遣いや、船底や床等の舞台の仕組みについて理解させる。 ○人形の細やかな動きを感じ取らせるために、音声無しで映像のみで鑑賞する場面を設ける。 ○「大物浦の段」のあらすじや登場人物について知らせて「大物浦の段」を鑑賞し、文楽のよさや美しさ、魅力について考えを表し批評文としてまとめさせる。
			評価規準（評価方法）	エ②　【観察・ワークシート・批評文】

Ⅷ　指導方針

（本題材を通して）

○生徒が題材への興味や関心を高め、見通しをもって学習に取り組むことができるよう、めあての提示の仕方を工夫する。

○生徒が気付いたことや考えたことを自由に表し、学習したことを分かりやすく振り返ることができるよう、ワークシートの工夫を図る。

○生徒が粘り強く主体的に学びが継続できるよう、めあてに沿った振り返りの場面を位置付けるとともに、次時に学んでみたいことや今後の学習にどのように生かすかについても問いかける。

（つかむ過程では）

○知的好奇心や課題解決意欲を喚起することができるよう、問いや発問の工夫を図る。

○知覚や感受を働かせながら音や音楽の特徴を捉えることができるよう、部分鑑賞や比較鑑賞等の音で確認する活動を取り入れる。

（追求する過程では）

○より深く音や音楽を聴き取ることができるよう、様々な生徒の気付きを交換させ、問い返しを行う。

○気付いたことを他者とのやり取りを通して共有・共感したり、多様な情報を取り入れたり、自分の考えを確かにしたりすることができるよう、小グループ活動を設定したり思考を促すためのツールを工夫したりする。

○総合芸術のよさや美しさを味わわせることができるよう、音声のみで聴取する場面と、映像のみで視る場面を意図的に設ける。

○義太夫節の音楽の特徴や固有性に気付かせることができるよう、朗読したりうたって試行表現させたりする。

（まとめる過程では）

○文楽のよさや美しさ、魅力について考えを表すことができるよう、文楽と他の総合芸術を比較する場面を設ける。

○総合芸術としての文楽の魅力を自分の言葉でまとめられることができるよう、視聴後に気付いたことをペア等で交流させてから批評文に表すように促す。

Ⅸ　本時の学習（２時間中１時間目）

１　ねらい　義太夫節の雰囲気を感じ取り、太夫と三味線の音色や重なりを手がかりに知覚したことと感受したことの関わりについて考える活動を通して、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりについて理解し、義太夫節の特徴に興味・関心をもつことができるようにする。

２　展開

学習活動	時間	支援及び留意点	観点 評価規準（方法）
1　題材の課題及び本時のめあてをつかむ。 （予想される生徒の反応） ・日本の昔の音楽だな ・歌舞伎と似ているな ・楽器が少ないな	10分	・「義経千本桜」の義太夫節の一節を音声のみで聴かせ、どんな音楽や芸能なのかを考えさせる。 ・聴取後に映像で視聴し、「文楽」という伝統芸能であることをつかませる。 ・義太夫節の音楽に関心をもたせるために人形遣いが声を発していないことが分かる場面を選ぶ。	

題材の課題 日本の伝統芸能「文楽」の特徴を感じ取り、よさや美しさを味わおう
本時のめあて 義太夫節の魅力を、太夫と三味線の特徴や重なりを手がかりに探ろう

2　義太夫節の雰囲気を感じ取り、雰囲気が醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素を手がかりに探る。 （予想される生徒の反応） ・大きな声で激しく渋いな ・叫んでのどが痛そうだな ・三味線は激しく短い音があったな ・音がだんだん下がって弾いていたな	30分	・義太夫節は、太夫と三味線で成り立っていることを知らせる。 ・義太夫節の特徴をつかみやすくするため、太夫・三味線・太夫と三味線の重なり方、の３つの視点で「大物浦の段」の最後の場面を聴き取らせ、知覚・感受したことをワークシートに記入させる。 ・自分の考えを確かにしたり、多様な情報を取り入れたりするために小グループ活動を取り入れ、ホワイトボードにまとめさせる。 ・ホワイトボードにまとめたものを全体で共有し、音で確認して聴き深めさせる。 ・太夫のうたい方の特徴をより深くつかませるために、朗読した後に、「大物浦の段」の最後の一節をうたい、太夫の語りを真似た声との比較表現をさせる。 ・太夫と三味線の重なりや関わりに気を付けながら「大物浦の段」の最後の場面を音声のみで聴かせる。	関心・意欲・態度 アー① 文楽の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・ワークシート】 鑑賞の能力 エー① 文楽の音楽の特徴を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりについて理解している。 【観察・ワークシート】
3　本時の学習のまとめをし学びを振り返り、次時への意欲付けを行う。	10分	・本時の学習を振り返り、義太夫節の効果や役割について実感できるよう、「大物浦の段」の最後の場面を DVD で提示し、人形の動きと共に視聴させる。 ・学習したことを明らかにするために、義太夫節の特徴や魅力について文章で表させる。 ・学習したことを次時につなげるため、本時の学習で疑問に感じたことや、さらに学びたいことについてワークシートに記入させる。 ・表した文章を紹介させ、得た考えや価値等を互いに交流させる。	

〈表れてほしい生徒の意識〉
・文楽と人形浄瑠璃は同じ芸術であるとわかった。義太夫節は、太夫一人と三味線だけで物語を進めているのに驚いた。次の時間では、さらに人形の動きと義太夫節との関わりについて知り、文楽のよさを見付けていきたい。